

## 市長記者会見記録

日時：2016年3月29日（火）午前11時～午前11時49分

場所：第4庁舎4階 第6、7会議室

議題：市政一般

（話題提供）いよいよ！「かわさきアプリ」がスタート！（総務局）

### <内容>

#### （いよいよ！「かわさきアプリ」がスタート！）

司会： ただいまより定例の市長記者会見を始めさせていただきます。本日の議題は話題提供といたしまして、いよいよ！「かわさきアプリ」がスタート！になります。

それでは、市長から、いよいよ！「かわさきアプリ」がスタート！について説明させていただきます。市長、よろしく願いいたします。

市長： こんにちは。先日は大変ご迷惑をおかけしまして、申しわけありませんでした。

それでは、「かわさきアプリ」についてご説明をさせていただきたいと思います。

現在、「かわさきアプリ」の開発を進めておりまして、この4月から市民の皆様にご利用いただける状況となりましたので、本日も説明をさせていただきたいと思います。お手元に資料も用意してございますが、スクリーンのほうをご覧いただきたいと思います。

本市では、これまで様々な媒体による情報の発信を行ってまいりましたが、近年、スマートフォン等のモバイル端末の急速な普及に加え、そのアプリケーションの活用も進み、利用者の目的・状況に応じた、様々な情報のタイムリーな受発信が可能となっております。

こうした背景を踏まえて、「かわさきアプリ」を新たな情報発信ツールとして活用すること、多様な主体からの情報発信に活用すること、また、本アプリを川崎市に関する情報のプラットフォームとしていくことなどを目的に開発を進めてまいりました。

次に、本アプリの特徴でございますけれども、1つ目は、情報を必要とする人へ必要なタイミングで的確に提供すること。2つ目は、緊急情報は利用者端末にプッシュ通知を行うこと。3つ目は、位置情報と連動した誘導が可能であること。4つ目は、データベースに登録している施設情報や位置情報等の各種データを各アプリが共通利用する仕組みであることなどでございます。

こうした市民生活に関する情報を集約する基盤の構築や、スマートフォンアプリケーションを通じて共通利用できる仕組みについては、全国初の取組でございます。

皆様にもぜひご利用いただくとともに、周知などご協力いただきますようによろしくお願い申し上げます。

「かわさきアプリ」の詳細につきましては、担当からご説明させていただきたいと思っております。

**ICT推進課長**：総務局でございます。それでは、各アプリの詳細についてご紹介いたします。

今回提供いたしますのは、ポータルアプリとなる「かわさきアプリ」、「防災アプリ」、「子育てアプリ」、「ごみ分別アプリ」の4つのアプリでございます。市民の皆様にご利用いただけるのは、本年4月1日からでございます。なお、iPhone向けの「かわさきアプリ」ポータルにつきましてはでございますが、現在アップル社によるアプリの審査中ございまして、若干提供が出来る可能性がある状況でございます。

これらアプリの利用に当たりましては、ご利用の端末がiPhoneであればApp Storeで、アンドロイド端末であればGoogle Playからダウンロードしていただきます。もちろん無料ですので、多くの方にご利用いただきたいと思います。

また、「かわさきアプリ」を知っていただくため、市政だよりをはじめ、本市ホームページなど、様々な媒体や場面を活用して周知してまいりたいと思っております。

次に、ポータルアプリとなる「かわさきアプリ」と各アプリの連動について、簡単にご紹介いたします。

まず、スマートフォンのアプリストアから「かわさきアプリ」をダウンロードしていただきます。「かわさきアプリ」内のメニューをタップいたしますと、「防災アプリ」、「子育てアプリ」、「Wi-Fi接続アプリ」、「ごみ分別アプリ」といったそれぞれのアプリが起動される仕組みとなっております。なお、それぞれのアプリを個別にダウンロードして利用いただくことも、もちろん可能となっております。

次に、「かわさきアプリ」の主な機能についてご紹介いたします。

「かわさきアプリ」は、様々なアプリやウェブサイトの入り口となるポータルアプリでございます。「かわさきアプリ」では、先ほどの4つのアプリの起動のほかに、市民の方の利用頻度の高い「かわさきのお医者さん」や「地域包括ケアシステムポータルサイト」などのウェブサイトにリンクいたします。

なお、メニューにある各アプリがインストールされていない場合には、アプリのダウンロードを促すメッセージが表示され、アプリストアのダウンロードサイトへ誘導

いたします。

また、画面右上をタップしていただくと画面の編集機能となり、利用しないメニューを非表示にすることや、利用頻度が高い順に並びかえることができます。こうした機能は、利用者の使いやすさを考慮した機能でございます。

次に、「防災アプリ」でございます。

本アプリは、利用者の操作にかかわらず、災害時の緊急避難情報や避難指示などを自動でお知らせする、いわゆるプッシュ通知機能を備え、気象情報や震度情報の表示、位置情報や地図と連動させ、災害時の開設避難場所への誘導、津波・洪水・土砂災害のハザードマップを登載しております。

次に、「防災アプリ」の機能の一例を画面の展開とあわせてご紹介いたします。ご覧いただくのは、緊急避難情報が発令されてから開設避難所へ誘導するまでの流れでございます。

初めに、端末に緊急情報のプッシュ通知が届きます。「アプリを起動する」をタップすると「防災アプリ」が起動し、災害情報が表示された画面が起動いたします。画面上部の赤枠に緊急避難情報が表示され、この赤枠をタップしていただくと緊急避難情報画面が表示されます。

また、災害情報画面左下の避難施設一覧ボタンをタップすると、避難所一覧画面が表示され、現在地から近い順に避難施設が表示されます。

ご覧のように開設している避難所は「イラスト」と「開設」の文字が赤く表示されます。さらに、この開設避難所をタップすると、地図画面が起動いたしまして、「地図アプリで見る」で目的地への誘導へと展開いたします。

なお、この画面の下部にございます「ハザードマップ」をタップいたしますと、津波・洪水・土砂災害のハザードマップが表示され、現在地がハザードエリア内であるかどうかの判定も行うことができます。

次に、「子育てアプリ」でございます。

昨年、麻生区において実施いたしました子育てアプリの実証実験を踏まえ、利用者の方のご意見をお聞きするなどしながら、より利用しやすく、さらに情報の全市展開を行うものでございます。

本アプリは、子育て関連イベント、公園などのお出かけスポット、医療機関の閲覧、利用者の設定条件に合わせた情報の絞り込みが容易にできることや、登録いただいたお子様の誕生年月やお住まいの地域などの条件に応じた情報、行政が発信する子育てイベント情報だけでなく、団体や民間事業者からの情報も提供してまいります。

また、おむつがえや授乳スペースがある施設の検索や誘導などの機能もございます。  
次に、「子育てアプリ」の機能の一例を画面の展開とあわせてご紹介いたします。

初めてご利用いただく際に、ユーザー設定を行うことで、その条件に合った情報が絞り込まれて画面に表示されます。ユーザー設定ボタンをタップいたしますと設定画面が表示されますので、お子様の誕生年月を登録していただきます。お子様は5人まで登録が可能です。

次に、地点の登録です。お住まいや、よく利用するスポットの郵便番号を登録いただくことで、登録地点から近い順に情報が表示されます。3地点まで登録が可能です。また、「お知らせを受ける地域」の設定をしていただくことで、アプリのトップ画面に設定した地域のお知らせが表示されるようになります。

続きまして、「子育てアプリ」のトップページの構成についてご紹介いたします。

各種の情報は、トップ画面右上のメニューボタン、もしくはトップ画面一番下のメニューで選択することができます。

こちらは、その日に開催されるイベント情報で、画面をスライドしていただければ、翌々日までの情報が表示されます。

次に、「マイイベント」欄は、イベント一覧などから興味のあるイベントや参加を予定しているイベント情報を、いつでも閲覧できるように保存しておくリマインドの機能となります。

次に、「健診・予防接種」欄ですが、お子様の年齢や月齢に合った健診や予防接種情報のお知らせ内容が表示されます。

次に、「お知らせ」欄ですが、区役所などからのお知らせ情報が表示されるようになります。

次に、「子育てアプリ」の機能の一例を画面の展開とあわせてご紹介いたします。ご覧いただくのは、各メニューの画面遷移でございます。

まず初めは、「イベント」メニューです。イベントをタップしていただきますと、イベント一覧が表示されます。お子様の年齢や開催日時、カレンダーで期間を設定することで、設定条件に応じたイベントの絞り込みが可能となります。なお、このカレンダー機能は、実証実験で利用者の方からご提案のあった機能でございます。

次に、「おでかけスポット」メニューをタップいたしますと、「おでかけスポット」一覧が表示されます。さらに、施設情報をタップしていただくと、その施設に関する詳細情報が表示されます。

さらに、「地図アプリで見る」をタップすると地図が起動いたしまして、周辺地域の

確認や施設までの誘導が可能となります。

次に、「医療機関」メニューをタップします。医療機関一覧が表示されますので、医療機関をタップしていただくことで医療機関の情報が表示され、同様に「地図アプリで見る」をタップすると地図が起動いたします。

最後に、「川崎市ごみ分別アプリ」でございます。

皆様もごみ分別の際に、これは一体何ごみなのだろうと悩んだことがあるのではないのでしょうか。そうしたごみの分別の際などに大いに役立つアプリでございます。

本アプリは、専修大学の飯田プロジェクトと共同開発したものでございまして、学生の意見も取り入れさせていただいております。

トップ画面ではタイムリーなお知らせ情報をお届けし、その日のごみの収集品目が何であるかに加え、ごみ出しの際に参考になるお天気情報も一目でわかります。ごみの品目を1万以上登録しておりますので、分別がわからない場合には簡単に検索ができます。

さらには、川崎純情小町が登場する3Rクイズなどもあり、楽しめて、参考になる情報も満載となっております。

次に、「ごみ分別アプリ」の機能の一例を画面の展開とあわせてご紹介いたします。ご覧いただくのは、トップページの構成でございます。

画面上部のテロップでは、荒天時の収集遅延や中止のほか、様々なお知らせを発信いたします。画面中央部のアイコンは、当日の収集品目が大きく表示されます。アイコンの下には、当日の天気が表示されます。画面の下部には、ごみの検索、豆知識、カレンダー、ゲームなどに展開する様々なアイコンが表示されます。

次に、検索画面をタップして、ごみ分別の検索の流れを紹介いたします。

品目を用語で検索、または五十音順の中から該当品目を選びます。該当品目の詳細として、分類及びごみの出し方の詳細が表示されます。分類をタップいたしますと、表示されたアイコンの簡単な内容が表示されます。さらに詳細を知りたい場合には、「もっと詳しく」ボタンをタップいたしますと、ブラウザが立ち上がりまして、本市のホームページが表示されるような形となります。

各アプリの紹介につきましては、以上でございます。

**司会：** ありがとうございます。

それでは、「かわさきアプリ」に関する質疑応答に入らせていただきます。進行は幹事社さん、お願いいたします。

**幹事社：** よろしく申し上げます。幹事社から4点お伺いします。

自治体初ということで銘打たれていますけれども、このアプリの中のどの部分が自治体初なのか。数個のアプリ、それぞれ全てがこういうことはやっていたのか、それとも統合したということが初めてなのか、その辺のところをもう少し具体的に教えていただきたいのが1点。

2として、どれぐらいの利用者数を見込んでいるのかというのが2点目です。

3点目が、市側からの情報提供というのはかなり豊富なメニューがあるようですが、逆に関係を受け取るような、何か双方向性みたいなものは含まれていないのかというのが3点目。

4点目が、これまで川崎市も公式のホームページがございますが、それでは得られない、アプリでしか得られない新たな情報というのがこの中にあるのかどうか、これが4点目。以上、お願いします。

**市長：** まず1つ目の何が全国初なのかということですが、個別のアプリとしては他の自治体とかでもやったことがあると聞いていますが、こういった形で、ポータルアプリとして総合的にまとめるという形は全国で初めてということになります。

2つ目のご質問のどのぐらいの利用者をまず見込むのかということでもありますけれども、より多くのところでもありますけれども、まずはこの4つのアプリで、半年以内に1万ダウンロードを目指したいと思っております。

それから3つ目が……、ごめんなさい、3つ目は。

**幹事社：** 双方向性みたいな機能ですね。

**市長：** 双方向性については、今回のアプリについては双方向性という形ではありませんけれども、今後予定しておりますアプリについては、双方向性というものが出てくるアプリもございます。

それと、4つ目が……。

**幹事社：** 公式のサイトでは得られないものが……。

**市長：** 基本的には、今回のものは、なるべく必要な人に必要な情報をということでありますので、今回、行政情報でないものも含まれていますので、子育てアプリなんかを見ていただきますと、いわゆる事業者のやっているもの、イベントなども見えることになりますので、いわゆる一般的な市政だよりなんかで出てくるイベント情報というのではないものも含めて提供されることになりますので、そういった意味では、新しい情報も追加されていると理解しています。

**幹事社：** わかりました。各社、どうぞ。

**記者：** 質問の前にお問い合わせなんですけれども、諸般の事情で今日発表になったという

ことは理解できるんですけども、これ、市政だよりもう出ていますよね。それで、我々が市政だよりの後追いをするわけにいかないの、いかに、詳細は今日だとしても、そういう諸般の事情があるんだったら、事前に資料配付するとか、レクつきで発表するとか、そういう対応を考えてもらいたかったです。

**市長：** はい、すみませんでした。

**記者：** それは1つお願いということと、質問は、ちょっと細かいんですけども、ごみの分別で、これ、たしかクイズだけじゃなくて、紙芝居みたいなものもあるやに聞いたんですけども、その辺をちょっと説明してもらえますか。

**環境局減量推進課：** 紙芝居につきましては、幼児向けとしてつくったものが2作品、紙芝居としてアプリの中で掲載されております。

**記者：** それは、ごみ分別のところですか。

**環境局減量推進課：** ごみ分別アプリの紙芝居というメニューがございますので、そちらの中に、現在2作品、掲載されております。幼児向けという形になっておりますので、どちらかという、簡単に3R、ごみの分別に興味を持ってもらうような形で紙芝居を作成して、そちらの作品が掲載されております。

**記者：** わかりました。

**幹事社：** ほかにございませんでしょうか。

**記者：** アプリの数え方なんですけれども、川崎のポータルアプリがあって、1枚目の資料を見ると、その後に防災アプリ、子育てアプリ、分別アプリとあるんですが、いただいた資料の2枚目を見ると、そこに、例えばかわさきWi-Fiアプリみたいなのが入っていて、かわさきWi-Fiのアプリは既に提供されているんですけど。要するに、ポータルアプリから3つのアプリが入れるのか、それともポータルアプリから4ついけるのか、これは考え方はどうすればいいのでしょうか。

**ICT推進課長：** 「かわさきアプリ」といたしましては、いわゆる単体という意味ではポータルのアプリのことを指しますけれども、あとそれぞれ、今ご説明いたしました防災ですとか子育て、あとはごみの分別といったものはそれぞれ個別のアプリとして提供しております、「かわさきアプリ」を、ポータルアプリを利用いただくことで、それらのアプリが一体的に利用できるというつくりになってございます。その中に、かわさきWi-Fi、先日ご説明いたしましたJapan Connected-free Wi-Fi、そちらのアプリのほうも連動して起動するような仕組みとなっているところでございます。

**記者：** そうすると、かわさきWi-Fi接続アプリは、これは既に提供されている

んでしたっけ。

**I C T 推進課長：** Japan Connected-free Wi-Fiのアプリは、もう既に提供されておりますので、こちらはN T T B P社のアプリケーションになりますけれども、そちらのほうを利用させていただいております。

**記者：** そうすると、ポータルアプリの中にぶら下がっている、一体的に利用できて、かつ、4月1日から供用されるのが、防災と子育てとごみ分別の3つのアプリということ。

**I C T 推進課長：** とポータルのアプリの4つという形。

**記者：** まあ、ポータルを抜かせば3つということですね。

**I C T 推進課長：** さようでございます。

**記者：** かわさきW i - F i の接続アプリは、既に供用されている。わかりました。

**記者：** 防災、子育て、ごみ分別の中で、川崎市のオリジナルコンテンツというのはどういったところなのか。

**市長：** いずれもオリジナルコンテンツだと思うんですが、例えば防災マップにしても、あるいは子育てにしても、地図と連動しているというのは非常に画期的なものだと思いますし、特に、いずれも画期的だと思いますが、子育てアプリは、先ほど説明したように、年齢みたいなものとか、お住まいの地域だとかというふうに入れていただくと、必要な情報が自分の今いる位置から近い順に出てくるという、そういったところが、ある意味画期的だと思っています。

**記者：** ありがとうございます。

**記者：** もう一つ、今、市長がおっしゃったことの中で、防災アプリの中でプッシュ機能を設けられていると思うんですけれども、例えば最近だと、各キャリアさんも、緊急地震情報や何か出たときには、強制的に立ち上がって連絡が来るようになりますが、このプッシュ通知というのはどういう場合に、どういうふうにつなががあるのでしょうか。

**危機管理室担当課長：** プッシュ通知につきましては、まず主に避難情報ですね、避難勧告、避難指示が出た場合の避難情報、こちらが配信されるようにはなっております。先ほどご質問の中にありました各キャリアから配信されているエリアメール、もしくは緊急速報メールというものでも同じ情報が配信されるんですが、キャリアが配信しているものは、例えば川崎市内にいないと受信できませんが、こちらの「かわさきアプリ」の防災アプリで配信するプッシュ通知は、ダウンロードされている方であれば、川崎市外でも同じ情報を受けられるという仕組みになっております。

**記者：** そうすると、プッシュの形で通知されるというのは、避難勧告もしくは避難指示が出た場合という理解でいいですか。

**危機管理室担当課長：** だけではないんですけども、緊急性の高いような情報は配信するようになっております。例えば、近年ですと土砂災害警戒情報等もございますので、そういう市民の安全性にかかわるような重要な情報は配信するような仕組みになっております。

**記者：** 今のこととの関連ですけれども、例えば緊急メールとか、緊急地震情報みたいなものってありますよね、キャリアさんのメールで通知されるようなやつ。あれの場合でもこういうのは出てくるんですか。

**危機管理室担当課長：** はい。土砂災害警戒情報も緊急速報メールでは配信していますので、配信の基準としては、大きな差はないんですが、市内だけで受けられるのか、市外でも受けられるのかというところは……。

**記者：** ごめんなさい。そうじゃなくて、地震があとちょっとで来ますみたいな連絡も、これで来るんですか。

**危機管理室担当課長：** 緊急地震速報、事前に来るという、あちらはプッシュ配信はしていません。あちらは、いわゆる配信していい事業者というんですか、市としては配信していませんので、気象庁がメインになって配信していますので。

**記者：** そうすると、基本的には市が避難勧告や避難指示を出した場合など。

**危機管理室担当課長：** そうですね、あと、土砂災害は気象庁から出るんですけども。緊急地震速報は、やはり時間的な制約もありますので、配信していい事業者が限られるという形になっています。

**記者：** ありがとうございます。

**幹事社：** あと、自治体では初ということですが、国では同様、類似のサービスがあるということなんでしょうか。もし、そうであれば、どこが「かわさきアプリ」というのは特徴的なんでしょうか。

**市長：** ごめんなさい、最後のところは。

**幹事社：** 自治体初という書き方をされていますけれども、逆に言うと、国のレベルでは、こういった統合的なアプリというのは出ているということなんでしょうか。

**市長：** いや、それは聞いていないですね。ないですね。

**ICT推進課長：** 国は、こうしたいいわゆる市民生活にかかわる部分については、国のほうでは事務として行っておりませんので、こうしたものについては自治体特有のものだというふうに思っています。

**幹事社：** 全国で初という……。

**ICT推進課長：** そういう意味では、先ほど申し上げましたように、個別のアプリとして提供しているのはあるかもしれませんが、こうした形で集約して発信するといったような、基盤を含めてですけれども、発信するといった取組……。

**幹事社：** 国も含めて初めてだと。

**ICT推進課長：** というふうに認識しております。

**幹事社：** わかりました。

ほかにございますでしょうか。

**記者：** すいません。アプリの開発の費用というのはどれぐらいかかっているのでしょうか。あと、開発者は誰でしょうか。

**市長：** 開発費用は、アプリに加えて基盤システムを含めた開発費というのは1,900万ということですよ。

開発者は、お願いします。

**ICT推進課長：** 開発事業者は富士通株式会社でございます。

また、ごみの分別のほうでございますけれども、こちらのほうの開発額につきましては230万円というふうになってございます。先ほど、ポータルと防災と子育ての3つのアプリにつきましては、今回このシステムをつくるのに基盤、施設情報とかを登録する基盤も合わせてつくったんですけれども、こちらのほうにつきましては、先ほど市長がおっしゃいましたように1,900万円です。

ごみ分別アプリにつきましては、別の事業者さんのほうでつくってございまして、こちらのほうは230万円というふうになっております。

**幹事社：** 200ですか100ですか。

**ICT推進課長：** 230万円です。

**記者：** そうすると、ポータルアプリも含めて4つのアプリを合わせると、大体2,130万円ですかね。

**ICT推進課長：** さようでございます。

**記者：** ついでに関連として市長にお伺いしたいんですけれども、Wi-Fiがしばらく前の会見で1,400カ所つくって提供しますというご案内をいただいたんですが、その後、かわさきWi-Fiの使用状況というのはどうですかね。

**ICT推進課長：** 総務局でございます。3月の議会の中でもご質問があったんですが、今、利用者の数が大体2万5,000のユニークユーザーの方がいらっしゃいまして、約2万5,000から3万、月によってばらつきがございますけれども、そういっ

た利用のアクセス数でございます。大体2万5,000から3万の間のアクセス数と  
考えていただければ結構です。

**記者：** 総務局さんとしては、想定どおりぐらいのアクセス数。

**I C T 推進課長：** そうですね。今回、W i - F i のアクセスポイントを置かせてい  
ただいているのが、例えば災害目的のものにつきましては、当然平時の利用というの  
があまり多くございませんので、そういったことを考慮しましても非常に多くの方に  
ご利用いただいているものだと認識しております。

**記者：** ありがとうございます。

**幹事社：** すいません、2万5,000って1日当たりとか、そういう……。

**I C T 推進課長：** いえ、1カ月でございます。

**幹事社：** ほかはいかがでしょうか。

**記者：** テレビ神奈川です。市民の方に実際どのように活用していただきたいか、一  
言お願いいたします。

**市長：** 防災は、特に市民の関心事でも必要な情報ということで、防災に対する関心  
も高いということですので、ぜひ登録していただきたいと思います。そして、川崎は  
全国でもまれに見る子育て世代の多い地域でありますので、必要な情報をしっかりと  
お届けして、うまく利用していただくためにも、ぜひこの際、登録していただいて、  
活用していただきたいなと思っています。

**幹事社：** ほかはいかがでしょうか。

**司会：** よろしいですか。では、本件につきましてはここで終了させていただきます。

それでは、市政一般となります。進行は、改めて幹事社さん、お願いいたします。

#### **(公共工事の入札不調について)**

**幹事社：** はい。じゃ、幹事社から1問だけ。このところ、川崎市発注の公共事業で  
入札の不調が相次いでいるかと思えます。この原因について、市長はどのようにお考  
えになっているのかというのと、今後どのような対策をして入札を順調に進めていき  
たいとお考えになっているのか、教えてください。

**市長：** 本当に川崎市のみならず、全国で不調の案件というのが相次いで、本市でも  
ご指摘のとおり、そうだと思います。これは、案件によっては、いわゆる市民生活に  
も影響が出てくるということでもありますので、さらにこの精度を上げてやっていき  
たいと思っています。

原因については様々ありますけれども、いわゆる建築費用の高騰だとか、そもそも

業者の課題等々、様々あるんですが、そういったところにもしっかりと対応するような、情報というものをしっかりと収集していきたいと思っています。

**幹事社：** そもそも予定価格であるとか最低制限価格とか、そのあたりが、現状の建築のマーケットと乖離しているのではないかという指摘もあるかと思うんですが、その辺はどのようにお考えですか。

**市長：** そういうご指摘があることも承知しております。そういったことも含めて、総合的にしっかりと精査していきたいと思っています。

**幹事社：** わかりました。各社、どうぞ。

### **(18歳選挙権に向けた対応について)**

**記者：** 公職選挙法の改正で、選挙年齢が引き上げ（下げ）られるということで、市内の高校というか、選挙管理委員会とか教育委員会で、市内の高校生に対して、何か取組なんかをお考え、何かあるのかどうかという。

**市長：** まず、教育委員会のほうでも、川崎市で独自の冊子をつくって主権者教育というものに当たっていくということでやっているところでありますし、これは川崎市の特徴として、小中高合わせてシームレスにしっかりと教育していくということ。単なる高校生になったらということではなくて、小学校、中学校、高校合わせた形でしっかり指導していくということが大切だと思って、今取組を進めています。

それから、選挙管理委員会とも連動した動きですけれども、選挙管理委員会のほうでも今年度、中学校は1校でありますけれども、高校は県立高校を含めて市立の高等学校で5校、県立高校で2校、それから中央支援学校で1校ということで、8校、大体2,500名の生徒さんに対して、出前講座を行って理解に努めてきたところです。28年度も引き続きこの事業の拡大に努めていきたいと思っております。

**記者：** 今、主権者教育というお話があったんですけれども、政治的な中立性というのは確保できるとお考えでしょうか。

**市長：** もちろん中立性の確保ということが大前提になってきますので、そのあたりは、教員に対する指導というのもしっかりと徹底するということにしております。

**記者：** ありがとうございます。

### **(待機児童対策について)**

**記者：** 今、国のほうで、「保育園落ちた日本死ね!!!」という匿名のブログを発端にして、きのう国が緊急の待機児童対策案をまとめたんですけれども、市長、現在の

市内の待機児童の現状の受けとめと、今後、もう新年度になるわけですがけれども、待機児童に対してのどのようなアプローチ、どのような対策を打ち出していくのかという、その2点をお伺いできますか。

**市長：** そうですね。昨年にも増して今年は申請者数というのが増えておりますし、これは毎年度、その傾向はどんどん強まっておりますので、そういった意味で、認可、それから認定の枠というものを今年もしっかりと増やして対応してきたところであります。何よりも、しっかりと一人一人のお父さん、お母さん、保護者の方たちに、しっかりとアフターフォローも含めて、しっかりと一人一人に寄り添う形で、何とかその枠に入っただくような取組を進めてきたところですが、最終段階、どのぐらいの待機児童解消になるのかならないのかというのは、まだ今、取り組んでいる最中ですので、まだ申し上げることはできないんですが、しっかりと丁寧にやっていきたいと思っています。

**記者：** 一方で、保育士の給料が低いとかいう問題もありまして、新年度から川崎市では新たな事業をやると言うんですけれども、保育士対策についてはどのようにやっていきますか。

**市長：** 保育士は、とにかく、全国で若干ばらつきがあるものの、都市部においてはどこも保育士不足という状況でありますので、ちょっと取り合いになっちゃっているような側面もあると思います。そういった中で、宿舎に対する補助だとか、こういった事業を今年度予算でつけておりますので、そういったものを活用しながらしっかりと確保に努めていきたいと思っています。しっかりと、新人の保育士さんという方も割合として多くなってきていますので、そういった意味で、公立の保育園とのネットワークで質の担保というものをしっかりと確保していかなくちゃいけないと思っております。

**記者：** ありがとうございます。

**記者：** それに関連して、去年の人口統計で20代の方がものすごく増えていますよね、市全般で。特に、中原区とか多摩区が非常に多くて。私もちょっと調べたんですけれども、武蔵小杉のタワーマンションは6,000万、7,000万以上すると思うんで、そこに20代の若者が住むとは思えないんですけれども、あの周辺で低層のマンションとかアパートがすごく増えている、しかも横須賀線の武蔵小杉駅が直通で非常に便利だということで増えているらしいんですけれども、それも含めて、市長は20代の若者が増えているということをどう見ているのかとか、子育てに関連しますけれども、ちょっと話を聞きたいんですが。

**市長：** ご指摘のとおりなんですけれども、20代が増えているということはですね。一方で、高層の高級マンションも、意外なところは、20代の皆さんが相当買っているということで、それはディベロッパーの皆さんも実際驚いていて、年齢層が、もう少し、30代以上というふうなことで見込んでいたのが、20代の割合というのが非常に多いと。共働きで、そしてお子様が1人という家庭というのが非常に多いと聞いておまして、そういった意味では、ある意味、高層マンションから待機児童というか、保育所のニーズが直結していると私どもも見ています。

そういった意味で、引き続き、これからも中原区は人口増というのが見込まれますので、そういった意味では、保育所の受け入れ枠というのを確保していかないと、ここ数年はまだまだ続くと思っておりますので、来年度の話だけじゃなくて、再来年、その先の人口動態をよく見ながら、こういった整備も進めていかなければならないというのが、引き続き、続いていこうと見ております。

**記者：** なぜ20代の若者に川崎は、中原区はじめ、人気なんですか。

**市長：** それだけ若者に魅力的な町というふうになってきたんだと思います。それは、コンパクトなまちづくりということで小杉周辺につくってきましたけれども、いわゆる東京にはないと言ったら語弊はありますけれども、多摩川をはじめとして非常に緑も豊かなところでありながら、生活空間として非常に落ちついたところもありますし、そういったところが魅力につながっているのではないかと考えています。

**記者：** ショッピングも便利と。

**市長：** そうですね。ショッピングもそうですし、子どもを遊ばせる場所というのもいっぱいありますし、魅力的な施設などもたくさんありますので、そういったところが受けているのではないかと考えています。

**記者：** 関連なんですけれども、政府の待機児童の緊急対策、保育士の配置基準を緩和したりとか、小規模保育所の定員を増やすとかという、やや、量を取りあえず優先していこうということだと思っておりますけれども、そういう意思は見えるんですけれども、市長としては、緊急対策自体はどういうふうに評価されていますか。

**市長：** どうやって、まず質を維持しながら量的な拡大をするかということを私どももやってきましたので、今の一連の話の流れからいけば、保育を必要とされているところというのが爆発的に増えているわけですから、そういった意味で量的な枠の拡大というのは必要なことですし、一定程度の緩和というのは理解はできますが、一方で、繰り返しになりますが、どうやって質を担保していくのかということは引き続き大きな課題だと思っておりますので、そこはゆるがせにしないということはとても大切なこ

とだと思いますので、そこのバランスをどうとっていくかという非常に悩ましい課題だと思います。

**記者：** その緊急対策の対策としてはどういうふうな感じで、待機児童問題に非常に苦しんでいる川崎市のトップとしては、どういうふうな感じで政府の今回の対策を見えていますか。

**市長：** 非常に緊急避難的なという印象を受けますけれども、この問題というのは引き続き、いつも私も申しておりますし、待機児童をゼロにすることが目的ではないんだという姿勢で、短期、中期、長期という課題でやっていかないと。瞬間的によくなっても、これはなかなか難しいことだと思いますので、そういった意味では、緊急対策のみならず、中長期に立った政策というのが私は必要だと思っています。

#### **(臨海部について)**

**記者：** 全然話は違うんですけども、来年度、臨海部と殿町のビジョンづくりが始まりますよね。それに対する市長の考えというか、殿町はいすゞの跡、更地にいろいろな新設のものができてきて、来年度、再来年度にほぼ埋まるという感じで。臨海部のほうは大企業、大事業所で、今、環境事業が非常に進んでいますけれども、一体のビジョンづくりはどういうイメージなのか。水素もあるんですけども、今の時点での考え方というか、気持ちみたいなのをちょっと聞きたいんですけども。

**市長：** そうですね。臨海部という大きなくくりの中でも、今おっしゃっていただいた殿町のところは非常にわかりやすいというか、拠点形成が進んでいると思いますし、それは非常に成功してきていると思っています。

いわゆる殿町以外の臨海部をこれからどう絵を描いていくかということは、これまで日本経済を牽引してきた、いわゆる地域が、大体どこの大手企業さんも、装置ができてから、設備してから大体50年、60年とたってきて、次の大きな再投資につなげていくといったときに、次の時代はどうなるんだろうということは、企業さんにとっても、どう再投資するかという判断基準というのはあると思うわけです。

そういった意味でも、今エネルギー関係のところでもいろんな再編が進んだり、産業がどう変わっていくのかということ、私たちも、行政も企業の皆さんと対話しながら、次のこの拠点を、さらに持続的な発展を遂げるためにはどうすべきなのかということ、対話の中で大きな絵を描いていきたいと思っています。

その中で、川崎市だけのエリアというよりも、少しグレーター、何ていうんですか、東京湾というか、東京湾の中でどういうふうな産業のクラスターというものをつくっ

ていくかというものを、少し全体を見ながらその中で川崎の臨海部の役割というものをしっかりと描いていかなくちゃいけないなど。そうでないと、やっぱり企業の皆さんとしても大きな、今後、30年、50年を見据えた再投資にもつながってこないと思っていますので、そういった意味でのビジョンづくりを今後2年間かけてやっていきたいと思っています。

**記者：** 水素はどういうふうに、今年、来年、動いていくという。

**市長：** 水素についても非常に動きのあるこの一、二年じゃないかと思っています。実際にリーディングプロジェクトで進んでいることも多々ありますので、これが来年度も再来年度もかなりいろんなものが出てくる。

先日もJRさんから報道発表あったと思いますが、エコステーションという形で溝ノ口にH2Oneが設置されるとか、そういった市民生活に見える形での取組というものもだんだん出てくるのではないかと期待しています。

#### **(待機児童対策について)**

**記者：** すいません、1つ戻って、保育所、待機児童の件なんですけれども、これは議会でも基準を見直したほうがいいんじゃないのかというお話もあったと思うんですが、例えば近年だと、川崎と同じように人口が急増して、かつ、川崎市とも、福田市長になられてから非常に連携を密にしている世田谷区なんかでは、厚生労働省の基準とは若干違う独自の基準を設けて、結果として全国で最多の待機児童数になっていますけれども、それでも世田谷区としては、実際に困っているお父さん、お母さんたちに応えられるようなカウントの仕方をしていくという姿勢で、あえて国とは違ったカウントの仕方をしているようなんですけれども、川崎市としては、あくまでも厚生労働省基準に基づいて待機児童を算出していくというお考えでしょうか。

**市長：** 基本的には、国の基準でやらないと、全国でみんな自治体がばらばらに基準をつくるというのは、僕はこれはおかしい話だと思うので、あくまでも厚生労働省、国の基準に基づいてカウントすべきだと思いますが、どういうふうにそれを詳しく、より分析して、施策に活かしていくのかというのは、ある意味、それぞれの自治体の工夫の仕方だと思います。ただ、基準は国全体でやるべきだと思います。そうじゃないと、住民の皆さんもものすごく迷うと思いますね。うちの団体はこうなっているけど、一体どうなっているのかという、全体像が全くわからないということになると思います。

**記者：** なるほど。わかりました。

幹事社： ほかはいかがでしょうか。

### (副市長の就任について)

記者： すいません。例の議会の最終日に、砂田副市長の後任として伊藤総務局長を充てるという、それは議会の同意を得られたんですけれども、4月以降の新たな3人の副市長の役割分担とか事務分担ですか、また職務代理の順序とかというのを、もし現段階で決められているようでしたら教えていただければと思うんですが。

市長： 決まっていますが、これは……。

記者： まだあれなんでしたっけ。人事の後でしたっけ。

【秘書部長】 決裁等があるので、もう少し。

記者： わかりました。了解しました。

市長： すいません。多分手続的な話だと思うんですけれども、申しわけないです。

幹事社： では、ちょっと前に副市長の話も出ましたので、砂田副市長、今年度末で退任をされるということになりました。砂田副市長にどういった言葉をかけてあげたいかというのと、これまでの任期の中で、何か砂田さんとの間で思い出に残っているエピソードなどがありましたら。

市長： 砂田副市長には、もう10年にわたって川崎市政のかなめの1人として活躍していただいて、私たち、市の職員の中でも、本当に信頼の厚い方でありましたので、そういった意味で今回退任をされるのは、私にとっても非常に残念で、就任して2年半になりますけれども、ここまで私もそれなりに市政運営ができてきたのも砂田副市長のお力、功績というのは本当に大きいと思っております。そういった意味で、大変残念なことでありますけれども、しかし後任の伊藤さんも含めて、砂田さんの示してきたスピリットというのは職員に浸透していると思いますし、それをしっかりと、欠けた分以上のものをみんなで発揮していきたいと思っています。

エピソード的には、日々いろんな相談もしていますので、挙げれば本当に切りがないほどたくさんありますね。

幹事社： 何か熱く議論を交わし合ったようなことはありませんか。けんかともまでは言いませんが。

市長： いやいや、それは全くなかったですけれども、しかし、本当に昨年も一昨年もいろんな事件だとか、様々危機的な状況だとか不祥事とかもたくさんありましたから、その都度2人でいろんな議論をして、どうしていくべきなんだという話を相談してきましたので、そういった意味で、非常に大きな力だったと思います。

幹事社： いつぐらいに砂田さんから辞意を伝えられて、ちなみに慰留とかはされましたか。

市長： 慰留はもちろんしました。ぜひまだやってほしいという思いはありますけれども。

幹事社： ほかにございませんか。

#### (民進党について)

記者： すいません、市政とちょっと関係なくて恐縮なんですけど、かつて市長も在籍された民主党が、今度、維新の党と一緒に民進党というのが発足したんですけども、市政と関係なくて恐縮なんですけれども、新しい民進党に対して、今、市長、どんなふうの評価というか、期待というか、見ておられますでしょうか。

市長： うーん……。

記者： 特に感想も期待もなくという感じでしょうか。

市長： うーん……、そうですね。まあ、衣がえされたわけですから、しっかりと頑張ってもらいたいなというふうには思いますけれども、特に何かということはございません。

記者： わかりました。すいません。

幹事社： ほかにございませんでしょうか。なければ。

司会： よろしいですか。

幹事社： はい。

司会： それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了させていただきます。ありがとうございました。

(以上)

---

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務局秘書部報道担当

電話番号： 044 (200) 2355